

全産業業況が停滞している中、 建設業は大幅な改善を示す

平成29年1月～3月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。
平成29年1月～3月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率71.5%

【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲16.4で前回(H28年10月～12月)より6.8ポイント改善。今回は建設業・卸売業・小売業が改善しました。今回大幅に改善された建設業では、受注・新規契約工事額が特に増加している一方で、今後の経営課題として従業員や熟練技術者の確保があげられました。

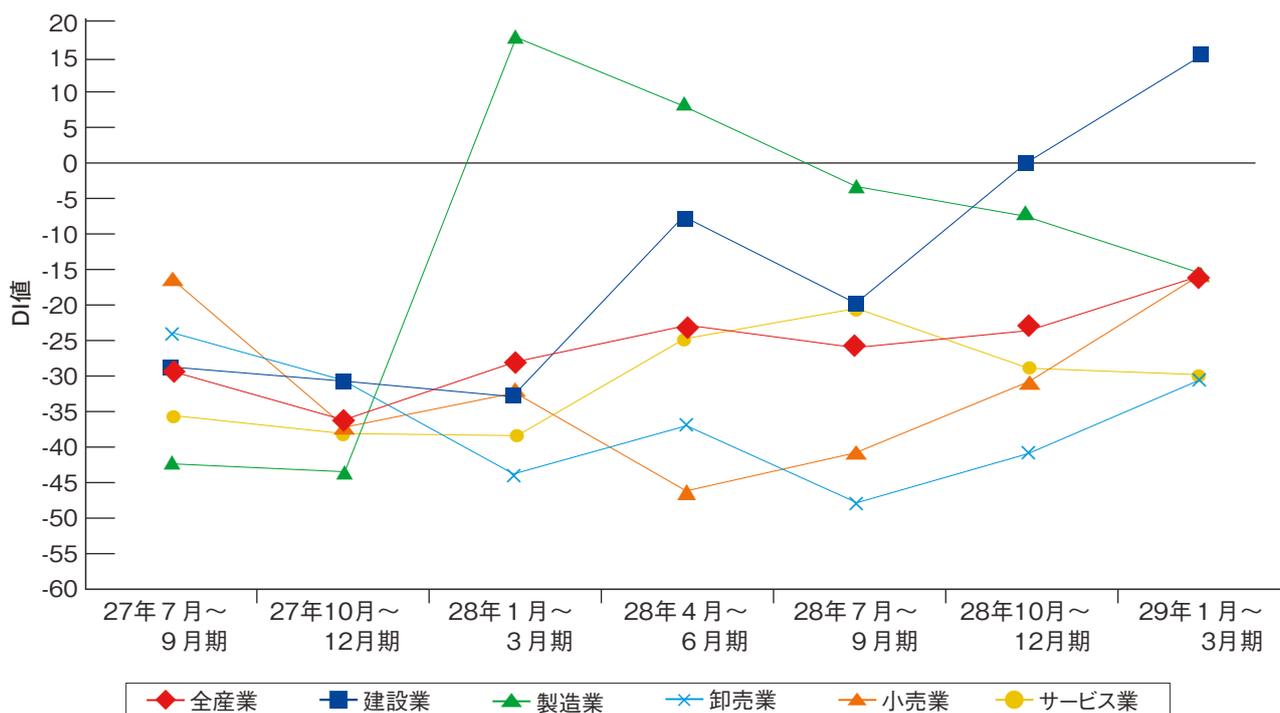
全産業売上高の推移：前回(H28年10月～12月)より全体で1.2ポイント悪化しました。

全産業資金繰りの動向：資金繰りは前回(H28年10月～12月)のDI値から2.1ポイント改善しました。

全産業採算の動向：前回(H28年10月～12月)より全体で3ポイント改善しました。

全産業雇用人員の動向：前回(H28年10月～12月)のDI値から0.8ポイント悪化しました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL054-641-2000